

1. 人生の最終段階における意思決定支援の課題について

○人生 100 年時代を迎え、特に高齢期における医療・ケアに関する希望をかなえ、自分らしい生き方を人生の最終段階まで続けることができるようにするために、現状においてどのような課題があるのか。

- ・本人の課題はどのようなものか
- ・家族等の課題はどのようなものか
- ・医療・介護従事者の課題はどのようなものか
- ・社会環境の課題はどのようなものか

2. 神戸市における ACP の導入について

○厚生労働省の「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」が平成 30 年に改定され、ACP（アドバンス・ケア・プランニング：人生の最終段階の医療・ケアについて、本人が家族等や医療・介護チームと事前に繰り返し話し合うプロセス）の概念が盛り込まれたが、神戸市において ACP を実際の医療・ケアの場に導入することについてどのように考えるか。

- ・導入の目標、目的をどのように考えるか
- ・ACP 以外の選択肢や有効な手段はないのか
- ・ACP の対象者をどのように考えるか
- ・疾病（不慮の事故、がん、心疾患等、認知症等）により人生の最終段階に至る経過が異なるが、ACP の開始時期をどのように考えるか
- ・誰が ACP の中心的役割を担うのか
- ・想定される法的課題に対し、どのように対応を考えるのか
- ・どのようなプロセスで意思決定を支援するのか
- ・自らの意思を表明しない方に対してはどのように支援するのか

3. 普及啓発の方法について

○厚生労働省は平成 30 年 11 月に ACP の愛称を「人生会議」と決定し、広く国民に推奨しているが、十分に普及しているとはいいがたい。神戸市において ACP を広く市民一人ひとりの生活の中に浸透していくようにするため、どのような取り組みが必要か。

- ・市民への普及啓発はどのようにすべきか
- ・医療・介護従事者への普及啓発はどのようにすべきか
- ・行政、医療関係者、介護関係者はどのように役割分担すべきか

4. 意思決定内容の表明ツールについて

○医療・介護関係者が本人の意思を尊重し共有するため、ACP のプロセスにおいて表明された本人の意向を書面に残す場合のツールを検討すべきではないか。

- ・どのような場面での活用を想定するのか
- ・どのような内容を盛り込むべきか
- ・ツールの普及はどのように行うべきか